

アシタノアサゴハンハ
フルーツパン?
ゴハントオミソシル?

トモダチ ランチパーティ
シュヤクハ
テヅクリサンドイッチ!

バーベキューニウミヘイコウ
オニクニヤサイニオニギリニ
ワスレモノハナイ?

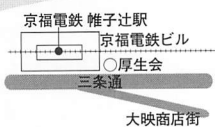
シンセンナサカナヲミツケタ
キョウハナンニシヨウカナ

ソナタノシミガミツカル

Fresco

帷子辻店 6月下旬OPEN!

京都市右京区
太秦帷子辻町30-3
京福帷子辻駅ビル
営 10:00~22:00



Fresco 四条店

京都市中京区西洞院通四条北西角
TEL.075-257-3553 営 10:00~24:00

Fresco 五条店

下京区五条通高倉西入ル
TEL.075-354-3131 営 10:00~22:00

Fresco ZEZE店

大津市丸の内町8-24
TEL.077-521-7701・7702・7703
営 10:00~20:00



映像パフォーマンスユニット

Synait

シユナイト

右：西原輝（にしはらあきら）高松市出身。左：飯川雄大（いしかわたけひろ）神戸市出身。共に成安造形大学在学中。2000年6月のユニット結成以来、VJとしての活動は多数多彩。早くも京都を飛び出し、全国展開の片鱗を見せる。が、本人たちは「やってるのはVJのスタイルだけじゃないんで…」とあくまで映像集団と自称する

VJとは… Visual Jockeyの略。クラブなどで、DJが流す音楽と共に映像を流す人をさす。楽曲の変化や聴衆の雰囲気などに応じて、映像を変化させる

KYOTIAN I.D.

キョーティアンアイティ

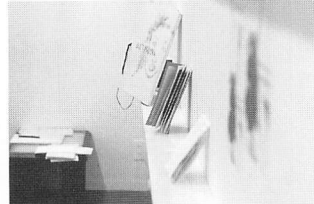
楽しいことを楽しいと思う 自由な瞳が映し出す光



音楽のジャンルは何でも来い。Synaitの映像。照明代わりの映像とはほど違い、音楽なして映像だけでも楽しめる。「RadioModule」へのアクセスはwww.radiomodule.com



1週間のうちに4つのオールナイトのイベントをこなしたことも。もちろんネタはそれぞれ異なるもので開催した。目の限界を知るいい機会だったとか



ギャラリーなどに限らず、大学や公園、神社などで展示を続ける「Boo Boo Book」。公募の作品である「本」を、眺めるだけでなく手に取れるのが楽しい

Information

ADAM vol.5 at METRO
日時：6月6日（水）場所：METRO サイクオンvol.6
日時：6月23日（土）場所：クラブeast Boo Boo Book
日時：6月12日～
ギャラリー-RAKU（京都造形芸術大学）を皮切りに移動展覧会がスタート
6月以降の出品の締切は7月1日。出品料5000円、「本」の概念を覆すような作品を募集
●問い合わせ先（すべて） 090-9991-1343（飯川雄大）

8月に4回目を迎えるメトロのイベント「RadioModule」。インターネット中継で、イベントの様態を世界中でモニターできるという面白い仕掛けに注目の一夜なのだが、音楽に合わせて流れるように次々と映し出される映像を、創ってライブとして映すのが彼ら。西原くんの手にはいつも、そういうビジュアルの素材を集めるためのビデオカメラがある。「RadioModule」第1回目は、映像アーティスト兼クリエイター兼パフォーマンスユニット・Synait結成のキッカケとなったイベントでもあった。

「ただバクゼンと映像やりたいな…とってた僕らを、やり方から場所まで導いてくれた」のが「RadioModule」DJの南氏。彼らにとっては大学での先生でもある。その構図がなんだかともさわやかで、さらにはまるで高校球児のようなそのまっすぐな瞳に、彼らがいかにいい出会いをモノにしたかが窺える。いまやイベントに次ぐイベント、また展覧会と、学生とは思えないほどのハードスケジュールだ。

VJとしての名はメジャーになりつつあるが、音楽に合わせる映像で観客という第三者を楽しませるライブクリエイティブ活動にとどまらないのがSynaitの特徴だ。8月には彼ら企画の映像の展覧会「MediaDessin」が予定されている。こちらは人を楽しませるのが目的ではなく、いちアーティストとして「自分の言いたい事を言う」ための場。「イベントであれ展覧会であれ、核になるのはもちろん映像。でもそれを表現する方法はほんとに様々だと思うから、色々やります」ということで、モットーは「OUT OF ~」。意図は「あらゆるワクの外」という感じ。Synaitというユニットそのものすら飛び越えることもある。6月から半年間かけて行われる本の移動展覧会「Boo Boo Book」は、Synaitマネージメント役の飯川くんが中心となって開くイベント。とは言え知らず知らずのうちに西原くんもからんでしまうのは、2人のチームワークの証明でもあるようだ。

「生活のために働くって事から離れたところで、その時々を楽しんで実感できるのが学生である僕らの特権。この先はどうなるかわからないけど、今だからこそできることってあると思う」当面の目標は、「学生の間に仕事で外国に招待されること！」。表現活動はずっとずっと続けていきたい、とトットツと語る彼ら。生活のためのしがらみや制約のない学生である今のうちに得た自由を、今後どこまで保ち、生かしていくのだろうか？ そのまっすぐな光を瞳に宿しつつ、彼らはもう成功への道を歩き出している。